

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000187		
法人名	特定非営利活動法人 楠の木会		
事業所名	グループホーム楠の木園		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字福富40-4		
自己評価作成日	平成25年11月7日	評価結果市町村受理日	平成26年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝は整容と朝の訪れを感じしっかり目覚めてもらうために暖かいタオルで顔を拭いてもらい、職員とともに体操を行ってもらって身体を動かしてもらいます。

午後には3時のおやつの前に身体と頭を使ってもらえるように、風船バレー・ペットボトルボーリング・合唱・文字書き・色塗り・計算等のレクを行うなど、なるべく活気にあふれたホームづくりを心がけています。

また、天気の良い日には職員とともに近くの神社まで散歩をしたり、日頃から外出の機会を設け、時間の取れる限りは利用者と職員が多くのコミュニケーションをとるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐賀市郊外の住宅街の中に、1階は通所介護、2階にグループホーム楠の木園がある。近所には、神社や公園がある。毎日、散歩を行い、自然や季節を感じながら、リハビリにもなり、地域住民との交流もできている。「見る、感じる、発見する、感動する」ことを大事に入居者主体の生活が送れるように検討し実践しながら支援されている。入居者と職員が穏やかに笑って支え合う温かなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」の運営理念を理解し、ホールに理念を掲げ、理念の実践に努めている。	理念を目につく場所へ掲示している。日々の支援の中で、常に理念を意識し入居者中心の支援ができるように、職員全員で共有し実践できるように努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリスマス等には近所の方がお孫さんを連れて来園され、歌や笛の演奏等を披露して頂いたりして交流を図っている。	日課の散歩の時に、挨拶をしたり、近所から野菜の差し入れがある。地域行事や美化活動にも、回覧板を通して参加している。地域の一員として、日常的に交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長さんや民生委員さん、近所の方等と運営推進会議で話し合い、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、地域包括支援センターの方、民生委員さん、ボランティアの方、利用者のご家族の方に参加していただき、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	ホームの行事や状況報告を行っている。地域包括支援センターより防災についての確認や地域との情報交換が行われている。そこで出た意見がサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川副町の健康保健センターで毎月第3火曜日に開催されている川副ネットワークに参加させていただき、情報交換及び研修に取り組んでいる。	町主催の高齢者福祉のネットワークへ参加したり、情報、相談を日頃より行い、良好な関係性が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルの作成や各研修会等に参加して身体拘束に関する知識の習得に努めている。	町主催の高齢者福祉のネットワークの研修会に参加している。それを全職員へ伝達し、身体拘束について知識、情報を共有し、拘束のないケアに努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが、介護の対する間違っただ行動や発言がないように日頃より注意している。また、研修会等で自己啓発を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見人制度の研修会に参加し、後日、職員研修会を実施し、研修内容を知らせる等して周知に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にはホーム内の見学や入所体験をしていただき、十分納得した段階で決めてもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者一人ひとりと会話をし、意見を尋ね対応するようにしている。ご家族の方にも園への要望、改善策等があれば話してもらうよう、また、要望箱等も設置している。	日頃のコミュニケーションにより入居者の意見、要望を把握している。家族の面会が少ない為、園だよりの活用や管理者が家族へ連絡し意見、要望をまとめ代表者へ報告されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全職員が集まり、意見交換を行い運営に反映できるよう、早期改善できるように努めている。	ケア会議の中で、入居者の立場に立って職員から、活発な意見が出ている。それを管理者がまとめて代表者へ報告をしているが、反映されないことも多い。	管理者は今後も代表者へ報告を続け、運営に関する職員の意見が反映される機会が増えることに期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取り組むように努力はしているが、十分な結果を得るには至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の全職員による園内研修を実施している。また、法人外の研修に参加していただけるよう、案内等を各人に渡したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副ネットワーク(町の保健センター主催)やグループホーム連絡協議会等に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり、おしゃべりするような感覚で、時間を取り、話を聞くようにしている。否定をせず、相手の話に耳を傾けることに重点を置くようになるべく心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談しやすい雰囲気作りや環境づくりに心がけ、園のほうからも声かけ等をするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との十分な話し合いを行い、一番何を優先させるかを考え、本人と家族にとって一番いい方法を見出せるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も介護をしてあげているという考えを持たずに、お手伝いをしているという認識のもとで、利用者と係わり合いを持ちながら、サービス提供を行い支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況、状態に応じて家族との話し合いの機会を持ち、どのように対応したらよいか、十分な話し合いをして、一緒に対応する機会作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方等が気軽に遊びに来ていただけるよう、一度こられた方には、また来ていただけるような環境づくりや声かけに努めている。	慣れ親しんだ場所へ外出、外食をしている。また、友人、知人、家族の面会時は、再度来ていただけるように声掛けし、馴染みの関係が途切れない様に支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通して一人ひとりが孤立せず、利用者同士がふれあい、支えあえるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	園のほうより連絡をとり、その後の状況把握に努め、いつでも相談できるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の質の向上に努めながら一人ひとり添った対応に努める。	日頃の会話や入居者の意向にできるだけ添えるように努められている。訴えが困難な方は、表情や行動、家族からの情報、生活歴をもとに、職員同士で共有し意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話を通して一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で、一人ひとりの過ごし方を観察し、心身状態や有する力等を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度全職員にて、介護計画の評価・見直しを行い、また、状況変化に応じてご家族、計画作成者、他の介護職員と話し合い、介護計画の変更を行っている。	ケア会議にて、評価、見直しを行い、個別の介護計画書が作成されている。しかし、計画作成の一連の流れが分かりにくく、担当者会議録が未整備である。	アセスメントから介護計画書や意見、評価が分かりやすい書式の検討と、担当者会議の記録の整備が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、一人ひとりの一日の過ごし方や、状態の変化等の記録を行い、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原則に捉われず、その時々、その人その人に応じた柔軟な対応をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の手続き等において、民生委員の方や役場の方との協力のもとで支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理の為、月2回の訪問往診で診察され、急変時や体調・様子のおかしい時には直ぐに連絡が取れるように取り組んでいる。	入居時に説明を行い、希望にそった支援が行われている。また、協力医の往診による健康管理が行われ、適切な医療が受けられる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいるものの、勤務日数が少なくデイサービスとの兼務の為、利用者の状況を正確に把握できない現状がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、職員がその利用者の方の性格や特徴を病院関係者の方に説明をし、退院時には、帰園後、どのようなことに気をつけて介護、生活を行うと良いか等の説明を病院関係者より職員が受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、対応について園の「出きる事、出来ないこと」の見極め等について日頃より、園の職員間で話し合い、関係医療機関等との連絡体制等の整備に努めている。	入居時に説明を行い、その状況になった時は、家族、主治医、施設と話し合いながら支援している。しかし、夜勤専属職員より、不安の声も聞かれている。	環境体制、重度化・終末期への方針の整備、職員研修を行うなど、全職員が安心して取り組むことができるような取り組みが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応できるようにマニュアルや緊急連絡体制の組織図を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川副ネットワークによる防災マニュアルを作成中である。 防災訓練を実施する。	年2回、避難訓練や町の高齢者福祉のネットワークによる施設合同訓練が実施されている。しかし、夜間想定訓練や、近隣住民や地域消防団等との訓練や協力体制は今の所ない。避難口が1か所のみのことも消防署より指摘があっている。	夜間想定訓練の実施や、火災やその他災害訓練について、避難経路の確認、確保ができるとともに、地域住民、消防団等との協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしないよう、日頃より職員に啓発している。記録の個人情報についても十分注意している。	不快にならないように、言葉かけや羞恥心に配慮し管理者より啓発している。個人情報の管理についても注意されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のわかる力に合わせたケアに努め、納得してできるだけ自分で行動を決めていた だけよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、気分よく過 ごしていただけるように支援するよう心がけ ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	美容は本人、ご家族の希望を受け望みの 店、又はカットボランティア、職員が入居者 の方の希望を聞きカットするよう努めてい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	自立支援へのつなげる一環として、食事の 準備・後片付け・食器洗いを一緒に行ってい る。	管理栄養士がバランスのとれた食事を提供 している。職員と一緒に、野菜の皮むきや食 器洗い、台拭きを行っている。食事中は、む せている入居者に対して、優しく言葉をかけ ながら、食事の支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事量は一人ひとりの摂取量や体調に合わ せている。水分についてはいつでも飲むこと ができるように職員が対応している。また、 決まった時間で定期的に水分摂取をしてい ただけるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後にうがい、歯磨きの徹底を図っている。 義歯の方は職員により洗浄を行っている。 立位困難な方は食堂で座位のまま歯磨きを 行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排泄後、後始末や陰洗などを行い、感染予防につなげる。	排泄支援が必要な方は、排泄チェック表で把握し、時間誘導を行いトイレでの排泄支援が行われている。自立の方も遠目の見守りが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を献立に取り入れ、便秘の防止に取り組んでいる。また、レクリエーションに身体を動かしてもらえようような体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂はできるだけゆっくりと楽しめられるように配慮し、気分転換ができるようにしている。	入浴日が設定されているが、清潔保持を大切にされている為、いつでも入浴ができるように準備はできている。拒否が強い時は、状態に合わせて柔軟に対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調に合わせて、休息や臥床ができるように心がけるとともに職員から声かけをするように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理が特定の職員に偏りがちなので、全ての職員が利用者様一人ひとりの既往歴、服薬中の薬の用法・用量等を把握・理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草木の世話、相撲の応援、仏様へのお供え物等個別の趣味や今までしてきたことを大切に、生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとりのADLに応じて、できる限り外に出れるように考えているが、人員状態やADLの低下などにより、晴れた日に限られた利用者様のみを散歩に連れて行くことしかできていないのが現状。	雨天以外は、日課として近所の神社や公園まで散歩へ行かれている。直接、肌で季節を感じたり農作物を見ながら昔話や近所の方と挨拶をしたり、気分転換が図られている。入居者も散歩を楽しみにされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さが理解できる方は少ないが、一人ひとりの希望や力に応じてお金に対する理解の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	話したい人や会いたい人に電話をしたりして、交流ができるように支援できるよう努力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室と共用空間には扉を儲け、不快な音や光がないよう配慮している。ホールには季節感を取り入れたカレンダーを作成し居心地よく過ごしていただけるように工夫している。	太陽の日差しが窓から入り、明るく暖かい。また、季節を感じることができるように、その時期の貼り絵が壁に張っている。乾燥には特に注意され、温度や湿度管理が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール(食堂)で、気のあった利用者同士がくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや好みのベッド、布団、タンス、ロッカー等を持ってきていただいている。また、利用者が使いやすいように道具を設置している。	居室入り口には、職員が描いた似顔絵が貼ってある。環境を変えない様に使い慣れた物を持ち込み、その人らしく安心して過ごすことができるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設け、また、途中にはベンチ、椅子等を設置し、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		